

それは、一通の電文から始まった

競艇場設置の動きは、昭和27年の蒲郡町時代にさかのぼります。当時、蒲郡町長であった舞田寿三郎氏が、愛知県モーターボート競走会の特別会員となり、競艇開設に向けての準備が進められました。しかし、13号台風による被害の復旧対策、町村合併による市制施行が重なり、また、住民の開催反対や蒲郡市が戦災都市でないために国への公営競技施行についての開催申請

の手続きが順調に進みませんでした。

そうしている間に、半田市が昭和28年4月、常滑市が同年8月に競艇場を開設したため、県内に2つの競艇場が存在することになり、蒲郡市に競艇場を建設することは、ますます、困難な状況になってしまいました。

このころ、戦災都市の岡崎市でも競艇開催計画がもちあがりました。それは、戦災による都市整備や生活困窮者援護などの財源確保に困っている矢先でもあり、常滑市が競艇に成功し、

その収益が市の財政に寄与し始めたのに刺激され、市内を流れている菅生川において競走事業を実施しようとするものでした。

折しもこうして、隣接する岡崎市と同時期に蒲郡市も競艇場建設案を愛知県に打診するところとなりましたが、これを受けた県は、「2カ所は許可できないので共同開催にしてはどうか。」と提案しました。そこで、両市が協議した結果、蒲郡市の海岸線に競艇場を建設することになりました。

蒲郡市内の候補地としては、当時の市役所（現在の蒲郡郵便局付近）南の海面を第一候補地としていましたが、波も荒く、市の港湾計画の予定地となっていたため、最終的に13号台風によって壊滅的な打撃を受け、再開のめどが立たなかった塩津地区の塩田を競艇場用地に転用する方向で買収が進められました。

昭和29年10月に蒲郡観光株式会社が発立され、塩田の買収を担当し、施設運営を愛知競艇株式会社任せ、歩合金として売上金の15%を市に繰り入れるという収益配分の形をとるということで関係

者間の協議が進められ、ここに全国で23番目の競艇場として蒲郡競艇が誕生したのです。

「ガ マゴ ウリキヨウソウ、セコウ、ジ チチヨウ、ニンカス」モレン

モーターボート連合会

この一通の電文から蒲郡競艇の歴史が始まりました。

記念すべき初レースは同年8月13日、旧盆の初日に開催され、1日目の売上金は505万7千200円、入場者数1万2千118人でした。



▲開催認可された電報文（昭和30年3月18日）



▲初開催のデモンストレーション（昭和30年8月13日）